

作成（2025 年度）

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	野口 尚志
所属機関名	教育学部 中等教育学科
職位	講師
在籍年	前任校 5.5 年、OUS 0.5 年

教育の責任

文学や国語の学びを通じて、あらゆる思考の基盤となる読解力・語彙力・文章力を育成する。他者の言語表現に触れ、読み解くことが、多様な背景や文化を持つ人々を受け入れるグローバルな他者理解の土台を築くと考え。こうした確かな言葉の力と豊かな他者理解の視点を備えた、次世代の教育現場を担う優れた国語教員を養成することが私の責任である。

教育の理念

文学・国語の教員として、文学作品を読むことを単なる娯楽に終わらせず、背景にある歴史・社会、そして自分とは異なる他者のありようを切実に体感するための経験となるような教育を行っていききたい。これを通じて目指すのは大きく次の 2 点である。

- ① 言葉を通じた他者理解と視野の拡大
- ② 想像力と共感力の育成

この 2 点を軸に、学生の豊かな内面と社会性の育成を支援したい。言葉の力をどこまでも磨き上げることで、学生個人の人間性を深めるとともに、将来、社会の多様な要請に応えていくための土台を築いていきたい。

教育の方法・方針

- ① 多角的なテキスト分析の指導。
数多くの作品を提示し、テキストを多角的に分析するための読みの視点や方法を教え、自らの言葉で批評する力を伸ばす。
- ② 的確な読解と言語化の指導。
文学の授業において作品の表現や構造を捉えさせ、そこでの発見や各自の感性を論理的に整理して言語化させる。
- ③ インプットとアウトプットの往還。
他者の言葉を正確に受け取ることと、自己の考えを的確に発信することの循環が、言語能力を高めると考える。
- ④ 課題解決力の育成に向けた実践。
上記の 3 点を主体的な課題解決のための訓練とし、授業では必ず他者の意見と自分の考えを比較・検討させるプロセスを組み込む。こうした経験の積み重ねが、教育現場で求められる多角的な視点、柔軟な思考力、課題に立ち向かう力を学生に身に付けることにつながると考える。

教育の成果

2025 年度の授業評価アンケート結果から、各分野の学生の理解の向上には貢献できていると考える。特に「日本文学史」のアンケートには「授業を受けてよかったこと」として「本を実

際を買って読んだこと」という回答が見られ、文学への関心を引き上げることができたのではないかと思う。

今後の目標

学生の文章力をはじめとする言語化能力の向上をさらに追究していきたい。「探究ゼミⅡ」の前半はライティングの学習、後半はプレゼンテーションの練習を行っているが、前半で学んだ文章の書き方や構成法を、プレゼンテーションにおける口頭での言語能力に還元できるように授業の組み立て方を工夫していきたい。

授業と研究のバランスを取って、論文を確実に書いていくことも目指したい。

根拠資料

シラバス、授業評価アンケート、各授業の提出課題、リアクションペーパー、授業プリント、授業で用いたスライド・レジュメ